



国際ロータリー第2760地区 2020-21年度ガバナー 岡部 勢氏インタビュー

変化の時こそ革命的に ロータリークラブをより 活動的にする

岡部 勢(おかべ つとむ)
オカベ物流代表取締役。2001年名古屋北ロータリークラブ入会。19-20年度第2760地区ガバナーエレクト。

1905年にシカゴで創設されたロータリーは、時代を通じて市民のリーダーがメンバーとなり社会奉仕活動や人道的支援に取り組んできた。ここ最近ではロータリーに所属し、活動する人も減少傾向にあるが、これからのロータリーのあり方などを国際ロータリー第2760地区2020-21年度ガバナーの岡部勢氏に聞いた。

——ガバナー就任おめでとうございます。

岡部 当地区は会員4938人(2月現在)と日本最大規模で注目されており、日本のロータリークラブのリーディング地区の一つでもあり、非常に緊張しています。

——岡部ガバナー年度の基本方針は？

岡部 今年1月、米国サンディエゴで国際協議会が開かれました。次年度会長はドイツ人のホルガー・クナークさんですが、「ロータリーは機会の扉を開く」とRIテーマを提唱されています。ローターアクトなど、「3つの扉」を通じた奉仕プロジェクトで会員増強やクラブ活性化を実現しようというものです。

クナークさんのRIテーマを受けて、私の年度の地区方針は「行動するロータリアン！世界で何かよいことをしよう、TOGETHER！」にしました。副題に「ロータリークラブの奉仕が世界の平和につながっていきます」とありますが、ロータリーの最大の目標は世界の平和。1905年、創始者のポール・ハリスが4人の会員でシカゴにロータリークラブを創ったと

きは「寂しいから皆、仲よくしよう」でした。07年、ハリスが会長になりシカゴに簡易トイレを寄贈し、奉仕に向かっています。それが現在、世界200か国以上、120万人の会員を擁するロータリーにつながったのです。クナークさんは奉仕プロジェクトの推進を力説されており、それを受けて私も奉仕プロジェクトに力を入れていきたいと思っています。特に若い人々は、奉仕に興味を持ちます。もっと地区方針をアピールしてやりがいがあることを理解してもらい仲間を増やしていきたいですね。

——一番力を入れていきたいことは？

岡部 伊藤直前ガバナーからも引き継いでいるのですが、クラブあつてのロータリーです。各クラブにもっと活躍してもらいたいという気持ちがあります。当地区で毎年開催している「ワールドフード+ふれ愛フェスタ」(昨年、今年は中止)は評判もよく、また、私の年度はフィリピンですがVTT(職業研修チーム)の奉仕活動も10年以上続いているなど、地区としての活動は大きなものがあります。しかし、クラ

ブとなると「何かやっていますか？」というイメージのクラブも少なくありません。ですから、地区内85クラブの行事や奉仕プロジェクトを世の中にアピールすることにも力を入れたいと考えています。

——前年度のとの違いは？

岡部 地区ロータリーには国際奉仕、社会奉仕、職業奉仕、青少年奉仕の各委員会がありましたが、これらを地区ロータリー奉仕委員会に統合しました。従来は重複したり、縦割り色が強く、お互いのことをよく知らなかったりの分断がありました。こうした垣根を取り去り集約することで新しいプロジェクトが発生するのではないのでしょうか。伊藤年度のマローニー会長もローターアクトに力を入れましたが、クナークさんからは、さらに2022年に向けてロータリアンになっていく力をつけるよう共同でやってほしいと言われており、今年度から「地区ローターアクト委員会」をローターアクター7人とロータリアン9人の共同委員会とし、共同プロジェクトを企画立案し、「環境問題」や「コロナ」などに対応するよう要請しています。次々年度までにロータリアンになるための成長をしてもらいたいと思っています。

——新型コロナ禍で大変と思いますが？

岡部 地区でも5月いっぱいほぼ全部が休会となっています。しかし私の所属する名古屋北クラブではホームページを活用し、会長コメントなどを読んでもらい、メールでのレスポンスで例会に出席したことにするようにしています。また理事会などはオンラインで会議を行っています。地区でもZOOMやYouTubeなどによるオンライン会議支援を考えています。ただ年配の方も多く、段階的に対応していきたいと考えています。他方、コロナによる例会中止によって浮いた費用を奉仕活動に有効利用するクラブもあるようです。また、4月に地区会員の発案で、自動車関連のプラスチック製品会社で医療機関の先生とタイアップしてフェイスシールドを作り、コロナ危機に、それを医療機関に送ろうということになりました。財団の地区補



医療機関に寄贈したフェイスシールドをつけた様子
助金余剰金を活用して3万個を4月下旬に愛知県医師会に贈り、大変感謝されました。同時にマスクなどの医療用具を送るクラブも数多くあるようです。また、フィリピン3790地区に防護服800着を名古屋北、名古屋昭和、名古屋東山、名古屋アイリス、小牧など数クラブとパストガバナー等の個人が協力して贈りました。とにかく「コロナに負けるな」の心意気で、こういう時こそロータリアンとして活動していきたいと思っています。

——世界的には？

岡部 国際大会が毎年6月に行われており、今年は米国ハワイ・ホノルルの予定でしたが中止になりました。青天の霹靂でしたが、RIも考えて、バーチャルな国際大会を6月20日から26日にオンラインで開催するそうです。海外からのメールも多く、例えばIT先進国インドではいろんな人を招いてバーチャルな大会を催しているようです。オンラインでの開催利点は会場に招く際の費用を抑えられるといったことがあげられます。マローニー会長や次期会長、事務局長らを一定の時間にオンラインで招聘し演説や対話をしてもらうことができます。6月のバーチャル国際大会はヴァーチャル・リアリティの設備も使用する予定で、見当もつかない大会になるかもしれません。

また20年は日本のロータリークラブ100周年です。11月24日に東京で記念大会を開催し、各地区から100周年の鐘が一堂に会し鳴らされる予定です。過去、ペストやスペイン風邪など感染症が猛威を振るった後の世界は様変わりするようですが、創始者ポール・ハリスは「変化の時こそ革命的になれ」と訴えており、気を引き締めていくつもりです。